



安曇野市

第20号

# 農業委員会だより

## 写真の記事

10月7日(水)に行われた豊科南小学校の生徒による稲刈り体験のようす。豊科地域の農業委員や、農家の方々から指導を受けつつ作業を行った。



## 新しい農業委員が選任されました

平成27年7月、任期満了に伴い、40名の農業委員が選挙により無投票で選任されました。また、団体推薦、議会推薦による8名も選任され、合わせて48名全員の委員が決定しました。

任期は平成27年7月20日から3年間です。

農業委員会は、農地等の利用関係の調整をはじめ農業全般にわたる問題を、農業者の創意と努力によって総合的に解決してゆくことを目的とした、農業者の利益を代表する機関です。

新農業委員の紹介は2ページから

## ● 主な内容 ●

新農業委員紹介	2～4
家族経営協定について	4～5
がんばる農業者	6
新しく農業をはじめの方へ	7
おふくろの味・旬の一句	8

発行日/平成27年12月2日

編集と発行/安曇野市農業委員会

安曇野市豊科6000番地

TEL 0263(71)2497

農業委員会事務局ホームページアドレス

<http://www.city.azumino.nagano.jp/gyosei/kakuka/nogyo/index.html>

申請書、届書のダウンロードができます。



# 豊科 地域



**高橋 修**  
(公選)  
担当地区  
吉野・成相・新田



**宮下 悦男**  
(公選)  
担当地区  
小瀬幅・光・大口沢



**中島 義朋**  
(土地改良区推薦)  
担当地区  
中曽根



**細田 信**  
(公選)  
担当地区  
本村・下鳥羽・上鳥羽



**高橋 茂**  
(公選)  
担当地区  
田沢・徳治郎



**青山 守**  
(公選)  
担当地区  
踏入・重柳



**齋藤 博文**  
(公選)  
担当地区  
細萱・寺所



**中野 孝**  
(公選)  
担当地区  
飯田



**山田まさ子**  
(議会推薦)  
担当地区  
下飯田



**望月妃佐枝**  
(議会推薦)  
担当地区  
等々力



**竹原 徳治**  
(公選)  
担当地区  
橋爪・耳塚



**曾根原 弘**  
(中信農業共済推薦)



**寺島 信夫**  
(公選)  
担当地区  
牧

# 穂高 地域



**平川 邦夫**  
(公選)  
担当地区  
穂高



**中山 隆義**  
(公選)  
担当地区  
久保田・塚原



**畠山 宜尚**  
(公選)  
担当地区  
嵩下・小岩岳



**有賀 善昭**  
(公選)  
担当地区  
富田・豊里



**下里 正**  
(公選)  
担当地区  
島新田・狐島・青木花見



**白井 正昭**  
(公選)  
担当地区  
矢原・白金



**有賀久美恵**  
(公選)  
担当地区  
古厩・立足



**小林 克人**  
(公選)  
担当地区  
柏原・柏矢町

# 地域 三郷



二木 一夫  
(公選)  
担当地区  
二木・及木



丸山 多江  
(議会推薦)  
担当地区  
一日市場



宮澤 貞仁  
(公選)  
担当地区  
中萱



倉科 茂男  
(公選)  
担当地区  
下長尾・野沢(公民館東)



塚田 善久  
(公選)  
担当地区  
北小倉



中野 亨  
(公選)  
担当地区  
七日市場



宮坂 七郎  
(公選)  
担当地区  
南小倉・室町



石曾根正尚  
(公選)  
担当地区  
楡・住吉



齋 信  
(公選)  
担当地区  
上長尾・野沢(公民館西)



伊藤 俊夫  
(公選)  
担当地区  
上堀



萩原 賢司  
(公選)  
担当地区  
岩原・倉田



上條 弘勝  
(公選)  
担当地区  
田尻



三村 照子  
(議会推薦)  
担当地区  
小田多井



長瀬 敏雄  
(公選)  
担当地区  
扇町



矢淵 一良  
(JAあづみ推薦)  
担当地区  
中堀



高田 良治  
(公選)  
担当地区  
上押野・下押野・塩川原



関 裕保  
(公選)  
担当地区  
萩原・南陸郷



伊藤 重徳  
(公選)  
担当地区  
東川手



青木 武良  
(松本ハイランド推薦)  
担当地区  
大足

# 地域 明科

## 家族経営協定について

家族の一人ひとりが農業に意欲的に取り組むとともに、農業経営の発展の方向を明確にしていくためには、家族内の話し合いが必要です。この話し合い運動が「家族経営協定」です。

平成27年9月3日、安曇野市役所本庁舎において、家族経営協定調印式が豊科地域長立会いのもと開催されました。今回は、豊科にお住まいの白坂さん、土屋さん、高澤さんの3組の家族経営協定が調印されました。

家族全員が積極的に農業にかわり、農業経営を発展させるため、みなさんも家族経営協定に取り組んでみませんか。

### 家族経営協定のメリット

家族経営協定は、家族内の話し合いを着実



▲調印式の様子  
上から白坂家、土屋家、高澤家

に進めるための手段の一つですが、同時に協定内容を実行する中で、農政上の関連制度を有効に活用することにもつながります。

協定締結をすると、各種制度上のメリットとして、次のようなものがあります。

#### ① 認定農業者制度を生かすときに

女性や後継者が、農業経営内で実質的に「共同経営者」として活躍している場合には、家族経営協定の締結を通じて、認定農業者制度のもとでの「夫婦協同申請」や「親子共同申請」を行うこともできます。

#### ② 農業者年金の有利な加入を図るときに

農業者の老後生活の安定に向けて、国民年金の上乗せとして「農業者年金制度」が設けられています。農業者年金には、認定農業者や、その認定農業者と家族経営協定を締結した配偶者や後継者に対して、保険料の政策支援が受けられる仕組みがあります。

#### ③ エコファーマーの認定を受けるときに

環境保全型農業の一環である減農薬・減化学肥料といった取り組みを展開する者に対して、都道府県知事は一定の要件のもとに「エコファーマー」として認定する仕組みがあります。この認定の仕組みにも、家族構成員間の「共同申請」の方法があり、家族経営協定を活用することができます。

#### ④ 制度資金を借りるときに

農業経営を行うなかで、女性や後継者が主体的となつて新たな経営部門を開始する場合などには、資金の調達が課題の一つとなります。このようなとき、農地等の固定資産の名義をもたないために融資が困難なケースがあります。こうしたケースをカバーするため、家族経営協定の締結に基づき、農業改良資金や農業近代化資金等の融資を自命名義で受けられる仕組みがあります。

#### ⑤ 優良農地のあつせんを受けるときに

家族経営協定を締結し、夫妻による共同経営であることを明確にした場合には、農業委員会が作成する農地のあつせんの受け手（買い手や借り手）となる候補者名簿に、夫妻両方の氏名が搭載される仕組みがあります。夫ばかりでなく、女性が自命名義で農地を取得する機会の拡大が図られます。

興味を持たれた方は、**農業委員または農業委員会事務局（TEL 0263-71-2497）**にご相談ください。

# がんばる農業者



建設会社を引退し、実家に就農して4年目になります。農家の長男ということもあり、将来は家を継ぐことが当然と思っていました。就農理由はずばり「実家が専業農家だから」です。



やすだ ひろき  
**安田 大樹**さん (29)  
(穂高 柏原地区)

### 経営面積等

水稲……………11ha  
麦・大豆……………4ha  
(受託作業 10ha)

しかし、実際に農業を仕事にしてさまざまな人々と関わっていくなかで、私の中の農業に対する考え方が年々変化してきました。今年から始めた農家民泊の取り組みでも感じたことですが、農業は単に「農作物を作って売る」というだけのものではないような気がします。

今年、私の家では農家民泊で計4校の学生を受け入れました。どの生徒たちも安曇野の自然の中で「空気がきれい」「食べ物がおいしい」「山がすごい」「生きものがたくさんいておもしろい」「夜が暗くて星がきれいに見える」など、本当に無邪気に感動してくれました。このとき思ったことが、私たちの当たり前が本当は素晴らしいものだということです。単純に米を作ってお金を貰うことだけではありません。田んぼを管理することだけでは、そこに生きる動植物や景観資源を守ることにつながります。観光地として有名な安曇野ですが、安曇野をイメージしたときに田園

風景は外せないでしょう。

近年水稲農家を取り巻く環境は非常に厳しいものがあります。後継者不足も深刻な問題です。私の家も今までと同じ方法では継続は厳しいでしょう。

しかし、地域の農業の担い手が年々減少するなかで、若手後継者として就農したからには、できる限り地域の土地を守っていきたいと思います。厳しい時代を乗り越え、この先農業を続けていくことが、必ず地域のかげがえのない財産になると信じています。

安曇野の良さは自然だけではありません。本当の良さは、いま安曇野に住む皆が「安曇野に住んでよかった」と心から思えることです。それが安曇野の何よりのエネルギーとなり、観光に来てくれた方たちへの最高のアピールにつながると 생각합니다。「100年先も変わらない田園風景を」をモットーに、私はこの先もこの地で農業を続けていきます。



▲農作業指導中のようす

# 新しく農業をはじめめる方へ

農業を始めたい皆さんを応援する給付金制度を紹介します

## 【青年就農給付金】

青年の就業意欲の喚起と就農後の定着を図るため、就農前の研修期間（2年以内）及び経営

が不安定な就農直後（5年以内）の所得を確保する給付金を給付します。

### 青年就農給付金の概要

種類	助成区分	申請窓口
準備型	就農に向けて、県が有効と認める研修を実施する県の農業大学校や、先進農家等において研修を受ける者	松本地方事務所農政課
経営開始型	経営開始直後の新規就農者	安曇野市農政課

## ◆経営開始型の助成対象者

平成22年4月以降に、45歳未満で農業経営を開始した独立・自営就農者。

※その他、応募要件が定められています。詳細は農林水産省HP内の実施要綱をご覧ください。

## ◆給付金額

経営開始初年度…1人あたり年間150万円  
 経営開始2年目以降…1人あたり（350万円 - 前年の総所得）×3/5  
 （ただし、夫婦で交付対象となった場合は夫婦合わせて1.5人分）

## ◆給付期間…最長5年間

※準備型については県（松本地方事務所）へお問い合わせください。

## 【安曇野市親元就農支援金】

次代の農業を担う認定農業者の後継者を支援します。

## ◆助成対象者

- 認定農業者の2親等内の直系卑属（子または孫）及びその配偶者で、次の要件全てを満たす者
- 市内に住所を有し、かつ、市内において農業経営を行う者
- 年間農業従事日数が200日以上である者
- 就農日における年齢が55歳未満の者
- 親元就農者の就農日が平成18年4月以降の者
- 前年の所得が500万円未満の者

## ◆給付金額…年額20万円

## ◆給付期間…最長5年間

※交付の可否は、関係者による判定会を設け、地域への貢献度等を審査した上で決定します。

## 【安曇野市荒廃農地解消就農者支援金】

一定の耕作放棄地を解消する農業者を支援します。

## ◆助成対象者

次の要件全てを満たす者

- 安曇野市で営農する市内在住の農業者
- 荒廃農地を3年以内に30アール以上（耕作条件の悪い傾斜地や山林の多い地域では10アール以上）解消する者
- （耕種農家以外で自ら作物を栽培しない方も、他の農業者に耕作を任せるなど協力者とともに解消すれば対象になります。）
- 前年の所得が500万円未満の者
- （法人の場合は主たる農業従事者の所得で判断します。）

## ◆給付金額…年額20万円

## ◆給付期間…5年間

## 【新規就農者生活支援金】

安曇野市農業再生協議会が、研修中または就農直後の経済的支援を行っています。

## ◆助成対象者

- 市内在住の認定新規就農者
- （県農業担い手育成基金の「研修費」受給中の者、市が所有する新規就農者住宅に入居している者、国や県、市等から月額30,000円以上の補助金を受給中の者、親元へ就農した者、等を除く）

## ◆給付金額…月額最高5万円

## ◆給付期間…最長3年間

※給付期間終了後、5年間市内での就農義務があります。

※本ページで紹介しました補助事業の詳しい内容や申請方法については、安曇野市役所農政課集落支援担当（71-2429）までお問い合わせください。

# おふくろの味



## ナス丼

### 材料

- ナス.....6個
- 牛肉(豚・鶏肉でも良い).....150g
- 赤・青ピーマン.....1個ずつ
- 小麦粉.....適量
- 油.....大さじ1
- 水.....100CC
- 酒.....大さじ1
- 砂糖.....大さじ1・5
- しょう油.....大さじ3

### 作り方

- ①ナスは縦半分に切り、皮にかのご切り込みを入れる。ピーマンは千切りにする。
- ②鍋に油を熱し、ナスの皮を下にして焼く。ピーマンも加える。
- ③ナスの皮がピカツとしたら返し、水を加えて、砂糖・しょう油も入れる。中火で、フタをしてナスに火を通す。
- ④肉を広げて、両面に小麦粉を薄くつけ、鍋に肉と酒を入れ、火を通し、味をからめたらできあがり。
- ⑤丼にご飯を盛り、具を配色よく載せていただく。

曾根原勝美



## 旬の一句・一首

倒れ伏す

稲穂のうえを赤とんぼ  
飄飄として飛び去りゆきぬ

高橋 茂委員

御礼肥に

小春灑き込む  
棚田かな

野口 和男さん

やれ終えた

ほつと刈田に目をやれば  
白鷺数羽舞い降りたちぬ

中田 愛子さん

ひとすじに

生き来し吾わたためらわず  
「農」と言う字を太ぶとと書く

青柳 幸秀さん

はげかけに

雀のすがた  
久しぶり

伊藤 重徳委員

中学で

学びし頃の色ジャージ  
野良着となりて

山本 早織さん

## 編集後記

信じられないような殺伐とした悲しい事件が毎日のようにテレビ・新聞で報じられています。私たちの身近にも、こうした事件が迫ってきてきているのではと思ってしまう。

そうした事件の背景として、(これが全てではないでしょうが)近所づきあい、地域コミュニティの希薄についてよく指摘されています。農家・非農家含めて地域内の交流が不足してはいないでしょうか。

古くからここ安曇野は田園産業都市と言われており、特に農業は、産業経済・環境・景観・地域コミュニティなど、いろんな意味で地域を支えてきました。

農業を面倒なものや邪魔者にするのではなく、それぞれの能力・目標に応じて関わりをもっていたらだければと思います。

各地域で「いたかいな」「よひまこよ」といった声が聞こえてくるようになるとういと思っています。

編集委員長 青山 守